

横幹連合創立 20 周年記念式典報告

椿 広計^{*1} ・ 伊東 明彦^{*2} ・ 伊藤 誠^{*3} ・ 藤井 享^{*4}

Report on the 20th Anniversary Celebration of Transdisciplinary Federation of Science and Technology

Hiroe TSUBAKI^{*1}, Akihiko ITO^{*2}, Makoto ITOH^{*3}, and Toru FUJII^{*4}

1. 横幹連合 20 周年記念事業準備

2022 年 5 月横幹連合総会で 20 周年記念事業として、2023 年総会時に「20 周年記念式典」を開催する構想が承認された。20 周年記念事業企画のために、鈴木久敏元会長を委員長とし安岡善文会長、常置委員会委員長（高木真人、椿広計、早川有、藤井享、伊藤誠、青木洋貴）、並木正美事務局長からなる 20 周年事業準備委員会が組織された。第 1 回会合は 2022 年 9 月に開催した。その後、5 回の委員会を開催し、20 周年記念事業（記念式典、横幹誌記念特集号）と 20 周年を機に推進する事業（コトづくり至宝選定、ロードマップの改訂）とを明確にし、記念事業方針を定めた。

2023 年 3 月に上記のメンバーに運営にも携わる横幹連合理事、各委員会委員（伊東明彦、武田博直、藤田政之、木村忠正、倉橋節也、船橋誠壽、遠藤薫）を加えた 20 周年記念事業拡大準備委員会を開催し、準備スケジュール、記念式典当日のスケジュールの議論を開始した。内閣府総合科学技術・イノベーション会議、日本学術会議、横断型基幹科

学技術推進協議会のメンバーを来賓として祝辞を頂戴する、歴代会長らによる横幹連合の将来活動についての提言を趣旨としたパネル討論からなる記念式典の構想はここで固まった。

また、記念式典配布資料、記念特集号の資料の中核をなす「横幹連合 2013~2022」について、船橋委員、本多敏監事による原稿依頼ととりまとめが進められた。

なお、2023 年度第 1 回理事会（2023 年 6 月）で準備委員会は、20 周年記念事業実行委員会に改称され、4 月に遡って実行委員会と位置付けられた。

2. 横幹連合創立 20 周年記念式典

こうして、横幹連合創立 20 周年記念式典は、2023 年 6 月 13 日東京大学山上会館大会議室で、横幹連合総会終了後、15 時から 18 時 15 分までハイブリッド方式で開催された。記念式典のプログラムは、次のようなものであった。

1) 安岡善文会長挨拶

2) 来賓祝辞

松尾泰樹氏（内閣府総合科学技術・イノベーション会議事務局長）：ビデオメッセージ

吉村忍氏（日本学術会議第 25 期第 3 部部长、東京大学）

桑原洋氏（横断型基幹科学技術推進協議会会長、(株)日立製作所）

3) 小谷元子氏（東北大学理事・副学長、科学技術振興機構地球規模課題対応国際科学技術協力

*1 統計数理研究所

*2 (株) ツクリエ

*3 筑波大学

*4 北見工業大学

*1 The Institute of Statistical Mathematics

*2 TSUCREA Co., Ltd.

*3 University of Tsukuba

*4 Kitami Institute of Technology

Received: 4 February 2024.

プログラム運営統括)

20周年記念特別講演「科学と社会—Interdisciplinaryを超えて Transdisciplinary へ—」

- 4) 歴代会長を含むパネル討論会（吉川弘之初代会長（メッセージ参加）、木村英紀第二代会長、出口光一郎第三代会長、鈴木久敏第四代会長、北川源一郎第五代会長、遠藤薫元副会長、小谷元子氏、モデレータ：安岡善文会長）

パネル討論は別途本誌で紹介されたように歴代会長から多くの提言がなされ、式典は祝賀会直前まで延長された。ここ数年、COVID-19蔓延の下では懇親会等が実施できなかったが、記念式典後に開催された祝賀会には多くの横幹連合関係者が参加され、久しぶりに歓談できる良い機会となった。

3. 横幹連合 20周年記念式典冒頭の概要紹介 (Fig. 1)

20周年記念式典の基調講演並びに歴代会長によるパネル討論の概要は、別途本誌に紹介されるので、ここでは記念式典冒頭の来賓祝辞等について、椿が要約し紹介する。いずれも横幹連合が今後担うべき活動への強い期待が感じられるものであった。

安岡善文会長開会挨拶概要：

先ず COVID-19 以降、様々な事業がオンライン開催となった中で、本記念式典がハイブリッド開催できた意義を示し、参加者に謝意が表された。

次に、「新横幹図」が、横幹連合が社会課題解決に向けた覚悟を示したものであり、20周年記念式典プログラムの狙いが、科学を社会に実装すること、科学と社会とを繋ぐことを意図していることが紹介された。

また、横幹連合発足時に比べて参加学会が減少していることを述べ、改めて一つの学会では難しい社会課題解決に向けた実践的活動の必要性を訴えられた。

3名のご来賓から祝辞の概要は次の通りである。

- 1) 松尾泰樹氏内閣府総合科学技術・イノベーション会議事務局長祝辞概要



Fig. 1: 安岡善文会長開会挨拶。

松尾氏からは、知の横断連携に関する横幹連合の活動への期待が示された。

先ず、科学の進歩が人類の持続的発展をもたらす鍵とされ、世界各国では先端的基础研究とその実用化を社会課題解決の有効策としてしのぎを削り、様々な社会課題の対応策として位置づけている中で、わが国でも社会課題の解決を経済成長のエンジンとする政府方針が示され、より具体的に科学技術イノベーション政策を推進することが大切であり、2023年6月9日に「統合イノベーション戦略2023」が閣議決定されたことが紹介された。

次に、わが国が目指す Society 5.0 の実現に向けて個々の技術開発を深めることは重要だが、複雑化する社会の課題解決に当たっては、制度面・倫理面・社会受容面を踏まえた俯瞰的統合的視野で物事をとらえる必要があり、自然科学、人文社会科学を含めた総合知を活用できる仕組み、多様な知が集い新たな価値を創出すること、「知の横断連携」が不可欠と述べられた。

最後に、社会課題は一方向で解決不可能であり、突き詰めるとことと同時に様々な角度の英知の結集が重要であり、横幹連合の活動を通じて、多様な背景を持つ専門領域が集い、これまでの常識にとらわれない新たな価値を創出し社会に還元可能となることへの期待が示された。

- 2) 吉村忍氏日本学術会議第25期第3部部長（東京大学）祝辞概要

吉村氏からは日本学術会議総合工学委員会の活動の歩みを横幹連合の歩みと重ねて、横幹連合の活動などの今後についての期待が示された。

学術会議では2005年に改革が進み、吉川弘之横幹連合初代会長なども関与して総合工学委員会が設立され、「知の統合」をキーワードとした活動が長期にわたり行われてきた。しかし東日本大震災が科学技術全体に対する問題意識を突き付け、改めて総合工学の再定義が議論された。2017年総合工学委員会は、「社会的課題に立ち向かう総合工学の強化推進」を提言し、社会の声を聴き、取り込む方針を示した。また、総合工学における研究評価、人材育成の問題の議論も続け、その議論の中核を担っていたのが横幹連合のメンバーだった。今日、総合、統合、融合、共創といったコンセプトに関する議論も進んでいるが、これらのコンセプトをSociety 5.0、カーボンニュートラルなどの社会課題に活かすためには、問題を解きほぐすことができなければならない。また、多様な分野が連携し社会課題解決に向かうには、共有可能なビジョンが必要であり、それを作り上げるのが横幹連合をはじめ総合を標榜するものの責務である。特に、個別分野の専門家が隣接する分野を理解する努力が大きな力を生むこととなる。

3) 桑原洋横断型基幹科学技術推進協議会会長祝辞概要

桑原氏からは、横幹連合における産学連携の在り方について問題点の所在と期待が示された。

まず、桑原氏が21年前、総合科学技術会議議員の際に、その後連合幹部となる方から横幹連合のような組織発足の必要性を訴えられ、そのサポートを約束し、間もなく連合が発足したこと、吉川初代会長から産業界から横幹連合をサポートする会の構築を要請され、10社から推進協議会を発足させ、以来会長を務めていることが披露された。

産学連携の実を上げるために課題募集を真剣に行い、ある化学会社が提示した課題について

委員会組織を作り、産学双方から人を出して着手したが、結果として産学の議論がかみ合わず上手く行かなかった。産業界側は目的が明解だが手段はあまり検討できておらず、必要な技術を合わせ開発することがなかなかできない。

責任者が学の場合も産の場合もあるが、それらが協力してやってゆくためには、「こういうことをやりたいが」という産の希望をときほぐし、全体システムの取りまとめの権限のある方がいないとまとまらない。産業界は開発技術、足りない技術は何かを知りたい。学側は、そういうことを教えるなら別の専門家という進め方ができない。これはだめだということになり、当該企業は協議会を退会された。

取りまとめ者の必要性、技術も産業界のこともわかる、聴く力があり、どういう技術を集めるのか、どこを新たに開発するのか、どうそういう技術を取り込んで目的を達成するかといったことをまとめられる人材が産学にいない。

このような検討段階で、産でも学でも片手間で来る人はだめ、暫く打ち込む、お互いを理解して、一つの目的を目指して時間をかけて対処しなければならないことも分かった。大変残念だったが貴重な教訓を得た。

それから20年近くがたったが、横幹連合は進化しているのかよくわからない。コーディネータ育成が難しくても必要であり、それが無いと産学連携はできない。連合も協議会も人材育成を含め、やることは多い。

現在、再び賛同者の集まる2つの具体的なテーマを産学連携で行う方向を検討している。一つは、制御情報システムのセキュリティの確保に関する問題を扱いたい。どういう仕組みをつくるべきかを検討したい。もう一つは、重くて大きい計測器に代わるナノレベルのセンサーを作りたい。これは様々な産業に効果をもたらす。

ぜひ、連合の方々が他の学会にも声をかけて頂き、協議会と共に再び産学連携を行いたいのので、ご支援をお願いしたい。

4. 20周年記念式典祝賀会報告

記念式典に引き続き、18時15分から20時まで、20周年記念式典祝賀会が山上会館1階で開催された。20周年記念式典祝賀会の式次第は次の通りである。

- 1) 開会挨拶：鈴木久敏 20周年記念事業準備委員会委員長 (Fig. 2)



Fig. 2: 開会挨拶.

- 2) 乾杯の挨拶：木村英紀第2代会長 (Fig. 3)



Fig. 3: 乾杯の挨拶.

- 3) 歓談 (Fig. 4)



Fig. 4: 歓談風景.

- 4) 横幹連合の歩み 2013~2022 の紹介：
船橋誠壽元副会長，本多敏監事 (Fig. 5)



Fig. 5: この10年の歩みの紹介.

- 5) 第14回横幹連合コンファレンス案内
青山和浩理事（第14回横幹連合コンファレンス
実行委員会委員長，東京大学）：対立と矛盾
を克服する横幹知を力説 (Fig. 6)



Fig. 6: 第14回横幹連合コンファレンスの紹介.

- 6) 閉会の挨拶：藤田政之副会長 (Fig. 7)



Fig. 7: 閉会の挨拶.

記念式典・祝賀会司会進行は、椿が担当した。